

主催：一般社団法人北海道環境保全技術協会
後援：一般社団法人土壌環境センター

令和3年度第1回環境保全技術セミナー

日時：令和3年7月21日（水）、14時00分～16時35分
開催方法：オンライン（Zoom ウェビナー）

【セミナーの内容】

1. 『道環協 技術レポートNo.11 石炭地下ガス化導入ガイドブック』

【概要】 胆振東部地震後の「ブラックアウト」で、ローカルネットワークエネルギーが再認識されている。北海道にはローカルエネルギーといえる未利用石炭が豊富にあり、地産地消のエネルギーとして活用できる。石炭地下ガス化は、この石炭を効率的にエネルギーとして活用する技術であり、この技術の歴史の変遷、諸外国事例、実用化での問題点と解決方法の調査を行い、事業実施のための導入ガイドブックとして取りまとめた。

【発表者】 エネルギーワーキンググループ 板倉 賢一 氏
（国立大学法人 室蘭工業大学大学院工学研究科・特任教授）
エネルギーワーキンググループリーダー 伊藤 俊裕 氏
（岩田地崎建設株式会社 環境ソリューション部・担当部長）

2. 『バイオレメディエーションによる土壌汚染対策について』

【概要】 バイオレメディエーションは栄養源を添加するバイオスティミュレーションと分解微生物を添加するバイオオーギュメンテーションに分類されます。エコサイクルが製造したEDC等の栄養源は土着の微生物を活性化させ様々な浄化事例があります。その中から第1種特定有害物質、シアン、六価クロム、1,4-ジオキサンを対象にした、自主対策や区域指定案件等についてご紹介します。

【発表者】 エコサイクル株式会社 環境修復事業部 本部長 川上 嘉充 氏

3. 『新基準に対応した有害重金属六価クロム汚染の処理技術と修復資材』

【概要】 1. 低濃度土壌汚染、農地、公園、汚泥等の処理技術
2. 土壌、地下水、焼却灰等の六価クロム処理技術

その他、六価クロム汚染処理資材の開発経緯と特徴、他資材との比較や中国での取り組み状況や、中国が抱える環境保全課題について具体例を交えて紹介します。

【発表者】 株式会社トーワ建設 取締役副社長 室山 雅彰 氏

新型コロナ対策として初のオンライン形式での開催となった。

オンライン参加者118名、会場参加者12名で遠方からの参加もあり、今後もオンラインによる開催を望む声も多く聞かれた。

セミナー自体、大きなトラブルもなく大変貴重な技術、事例等をご紹介いただきました。

